

JDBAインフォメーション

協会からのお知らせ

■「ドッジボール日本代表後援会・家族会(DJBF)」ご紹介

ドッジボール日本代表後援会・家族会は、2016年度第3回アジアカップ(香港で開催)を前に発足しました。17年度以降も引き続き新年度会員を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

〈連絡先〉「ドッジボール日本代表後援会・家族会」事務局(担当:渡邊和子)

TEL.090-8302-7771

*会員期間・規約などの詳細については、上記事務局より「入会申込書」を送付しますので確認ください。

*会費の納付金額により、さまざまな特典があります。お気軽に事務局までお問い合わせください。

*本組織は一般財団法人日本ドッジボール協会とは別組織であり、「代表選手の活動支援」を目的に活動しています。

■2017年度事業情報

2017年度 JDBA主催大会は次の通りです。

- ・第27回全日本ドッジボール選手権全国大会:2017年8月13日(日)埼玉県さいたま市記念総合体育館
- ・2017J.D.B.A.全日本選手権:2017年10月1日(日)愛知県スカイホール豊田
- ・第4回全日本女子総合選手権:2017年12月9~10日(土・日)静岡県このはなアリーナ
- ・第27回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会:2018年3月25日(日)三重県サオーナ



■2017年度更新、間もなく開始!

2016年度に更新または新規で登録をいただいた公認審判員(A・B・C級)・公認指導者(区分I・II)、一般競技者は、17年度の資格更新手続きをお願いします。17年度更新手続き期間は2017年4月1日~5月31日です。期限内に更新登録が完了できない場合は、資格失効となりますので注意ください。一般・中高生競技者の新規登録も4月1日より開始します。

■<指導委員会からのお知らせ>

2017年度からのD-1、D-1G登録チームと指導者資格について

2017年度より義務付ける公認指導者の配置義務大会、および配置人数については14年度に既に決定していますが、改めてお知らせします。

- ・JDBA公認準指導者(準指導員区分I・区分II、指導員)の配置義務大会
2017年度以降:夏・春の小学生全国大会(D-1)、全日本女子総合選手権(D-1G)、および上記大会への出場を目指す予選会
- ・必要配置人数
2017年度以降:ベンチ内チーム役員1名
2019年度以降:ベンチ内チーム役員全員

*指導員とは、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者「ドッジボール指導員」です。

■広報紙掲載チーム(選手・都道府県協会も!)募集中!

年2回発行される広報紙では、全国各地のドッジボールチームを紹介しています。カテゴリーや戦歴などは一切問いません。パパさんチーム、ママさんチームでも、もちろんOK。掲載を希望するチームは、公式サイトのお問い合わせよりお申し込みください。自薦他薦を問いません。ご応募お待ちしています!



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売:独立行政法人日本スポーツ振興センター

一般財団法人日本ドッジボール協会

http://www.dodgeball.or.jp

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405

TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840



このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



ドッジボールニュース

Vol. 7

2017.03

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



時には熱く、そして時には冷静に。 5分間のドラマに燃える シニアドッジ・山口D.B.C.

今回は、山口県山口市を本拠地に活動する県初のシニアチーム「山口D.B.C.」を紹介します。チームを結成して10年目を迎えた現在、どのような思いでドッジボールに向き合っているのか、同チームの田畠大樹さんにお話を伺いました。

■チーム結成のきっかけは?

2007年、現在、代表兼監督を務める辻大輔が中心になつて、10人ほどでチームを結成。当時、ドッジボールが好きで、続けたいと思っていたOB・OGが結構いたにもかかわらず、受け皿がありませんでした。ならば自分たちでチームを!と始めたわけです。山口県では初めてのシニアチームで、もう1つの下関OB会とで、県内のシニアチームは2チームだけです。



チームの仲間たち

■現在のチーム状況は?

設立メンバーで残っているのは監督と私の2名だけですが、現在、約20名で活動しています。小学生時代から20年という経験者もいれば、まったくの初心者も。経験年数は平均すれば10年ぐらいでしょうか。女性メンバーは中高生と社会人で5名。14年には全日本女子総合選手権にも出場しましたし、昨年の第3回アジアカップでは、高校生のチームメンバー・大村の子さんが日本代表に選ばされました。



兄弟チームとの交流会の様子

■日ごろの活動や大会への参加は?

週2回、水曜と土曜に2時間ほど練習しますが、参加者は10人ぐらゐ。人数が集まらないと、練習の質はどうしても落ちてしまいます。それでも、アッタッカーの連携やキャッチ力の強化を目的に、試合形式で楽しみながら汗を流しています。ただ、中高生が多く、学校の部活動とかけ持ちするのは大変で、集まりが悪いこともしばしば。シニアチームならでは難しさですね。



ともに教師の辻大輔代表兼監督(左)と田畠大樹さん(右)

それから、他チームと試合するには、毎回2時間以上かけて遠征しなければなりません。近場にシニアチームがあれば頻繁に試合ができ、技術だけでなくモチベーションも上がるのに悩みの多いところです。16年度、大会へは、通常年4回開催される「九州リーグ」を中心に、「シニアチャンピオンシップ in 中国」(準優勝)、「第4回2016JDBA全日本選手権」(ベスト16)などに参加しました。



九州リーグ冬の陣での試合

湯田・仁保から40名、山口D.B.C.から10名が集結。参加者をシャッフルしたリーグ戦やスピードガンコンテストを楽しんで、それがきっかけでお互いの大会に応援に行ったり、シニアに入る子も出てきたり、それなりの成果があったと思います。

■シニアドッジの魅力は?

中学生から社会人まで幅広い世代と交流できる、競技として勝つという目標が持てることでしょうか。格闘技に近いスリルが堪能できる上、コートが分かれているので、体が小さく力が弱くても、工夫次第でどんなチームとも対等に戦えます。これこそドッジボールの魅力じゃないかと思います。

思い出といえば、15年の全日本選手権。ベスト16で敗退しましたが、この大会で引退を決めていた選手が負けた後、大号泣。悔しくて泣いたんじゃないのです。彼が言うには「このチームでやっていて良かった。メンバーに会えてうれしかった」と。競技である以上勝つことを目標にしていますが、こうした経験はチームをよりいっそう強くします。「熱いぞ、ドッジ!」って言いたいですね。

■最後に、これからの目標をお願いします

チームは今年で10周年を迎えます。当面の目標として、「設立10周年記念大会の開催」「九州リーグ上位入賞」、そして「全日本選手権ベスト8以上」の3つを掲げています。長期的な目標としては、ドッジボールが大好きな人や山口県の小学生ドッジボールチームのOB・OGのために、チームを長く存続させること。そのために、できることを地道にやっていくつもりです。

読者の皆さんとも、どこかの大会でお会いできる日を楽しみにしています。私たちドッジボーラーが力を合わせて、競技人口を増やしていきましょう! チームのロゴマーク



沖縄をビーチドッジボールの聖地に!!

第1回ビーチドッジフェスティバルオキナワ開催〈平成28年度スポーツツーリズム戦略推進事業採択事業〉

2017年1月21日、沖縄県豊見城市の美らSUNビーチにおいて、「第1回ビーチドッジフェスティバルオキナワ」が開催されました。当日は、県内外はもとより海外からも総勢52チームが参加し、大変な盛りあがりを見せました。その様子について、写真を中心にお紹介します。

■大会公式ソング「Make you happy」に乗せて…

大会当日は、曇り空ながら時おり陽が差しこみ、風も穏やかで気温も昼にかけて上昇する絶好のコンディションに恵まれました。式典の後、午前10時より予選リーグを開始。全10コートで熱戦の火ぶたが切られました。

会場の盛りあがりに一役買ったのが、地元沖縄のアーティストによるステージ。男女2人組のFACE2は大会公式ソング「Make you happy」を披露し、参加者と共に熱唱。さらにDJによる効果音で、競技はよりいっそうの盛りあがりを見せました。

午後から行われた決勝トーナメントでは、予選を勝ち抜いたチームによる真剣勝負が始まり、同点による延長、ゴールデンコア戦と予想外の大熱戦。さらに、決勝戦は、実況解説・効果音ありの本格仕様。センターコートに観客が集結し、熱いファイナルステージが繰り広げられました。

表彰式・閉会式では、入賞チームに賞状や盾、副賞が贈呈され、参加選手が互いの健闘を讃え合う大きな拍手。最後に京極実行委員長が「第2回はさらに多くの仲間で集まろう」と挨拶し、全日程を終了しました。

■ドッジボール、ビーチスポーツの可能性を広げるために

私たちが目指すのは、ドッジボールが眞の国民的スポーツになること、世界にこのスポーツを広げていくことです。「いつでも」「どこでも」「誰でも」、そして「いつまでも」楽しむことのできるスポーツこそ、ドッジボールだと考えているからです。

今回、この考え方を「ビーチドッジフェスティバル」という形で、沖縄からその素晴らしさを発信することができました。ビーチで楽しんでいただくことで、その裾野は着実に広がると、私たちは確信しています。

今回の事業を契機に、ビーチドッジ、ビーチスポーツを全国各地に広め、アジア、そして世界を視野に入れた事業に成長させていくこと、それが私たちの目標です。

予告!

以下のビーチドッジボール開催が決まっています。ぜひご参加下さい。

- ・お台場ビーチドッジ(2017年5月)
- ・第2回ビーチドッジフェスティバルオキナワ(2017年11月)



■大会概要

主 催：ビーチドッジフェスティバル実行委員会（一般財団法人日本ドッジボール協会・合同会社うさぎでざいん・株式会社エンジンズ）

共 催：琉球新報社

主 管：一般財団法人日本ドッジボール協会

後 援：沖縄県豊見城市

協 賛：山本光学株式会社

協 力：沖縄県ドッジボール協会、インターナショナルデザインアカデミー、株式会社平山印刷、株式会社ミカサ、ミズノ株式会社、キッズプロジェクトパナワーズ

■実施概要

- | | |
|----------|--|
| 期 日 | : 2017年1月21日(土) 9:00～17:00 |
| 会 場 | : 沖縄県豊見城市豊崎・美らSUN(ちゅらさん) ビーチ全域 |
| 参 加 | : 合計750名(競技者:52チーム350名、引率者:100名、観客:250名、大会役員・スタッフ:50名) |
| 競技者数 | : 県内290、県外10、海外(香港、台湾)50名 |
| 役員・スタッフ数 | : 役員8、審判員20、スタッフ22名 |
| 部 門 | : エキスパート(競技者)12、エンジョイ(初心者)10、キッズ(小学生)30チーム |
| 試合数 | : 合計118(エキスパート29、エンジョイ26、キッズ63)試合 |

■大会結果

優勝チームは以下の通りです。
 ・エキスパート部門:日本代表
 ・エンジョイ部門:香港カレッジ
 ・キッズ部門:北中城フライングフィッシュ

『 』 幸報

2017年(平成29年)2月4日(土曜日)



■新潟の少年ドッジボーラーが地元紙に紹介されました!

新潟日報記事「おおきくなつたら」コメント 新潟県ドッジボール協会 理事長 長谷川智(はせがわあきら)

『私たちが目指す子ども像』

平成28年度の新潟県体育協会功労者賞に、当協会・森 登志男(もりとしお)前会長が選出されました。その前会長が20年以上にわたり、一貫して目指していたのは、JDBAの理念に基づいた子どもの育成でした。

この新潟日報の「おおきくなつたら」欄の「平原 介希君」の言葉は、私たち県協会関係者に感動を与えてくれました。「日本代表になりたい」「新しいドッジボールクラブを作りたい」「子どもたちにドッジボールを教えていい」という平原君の思いは、まさに私たちが目指してきた子ども像そのものであります。現会長は、春の全国県大会の開会式にて、この「おおきくなつたら」を紹介し、賞賛しました。

今後も平原君に続く子どもたちを育てるべく、県協会、各チーム、サポート団体と一緒に取り組んでいきたいと意を新たにしました。